



東小だより

ともに伸びる 元気な子ども since 2018

新発田市立東小学校

令和8年9月1日

令和8年度 第5号

<http://higashi-e.shibata.ed.jp/>

Mr. ラジオ体操

校長 五十嵐 潤

長い夏休みが明け、校舎に子どもたちの元気な声が戻ってきました。日焼けした顔、ひと回り大きくなった体つきから、それぞれに充実した夏を過ごしたことが伝わり、嬉しく頼もしい気持ちでいっぱいです。子どもたちの安心・安全な夏休みを支えていただき、ありがとうございました。

さて、私は、ある日、ラジオ体操の光景を目にしました。すると、ふと私の頭にある「昭和の夏休み」の記憶がよみがえりました。

私が子どもの頃、夏休みのラジオ体操は8月31日まで毎日ありました。朝6時前、学校のグラウンドには大勢の子どもや保護者、地域の大人が続々と集まります。スピーカーからはずっとラジオが流れています。6時半になり、ラジオ体操の音楽が流れると、朝礼台の上で、一日も欠かさずお手本を示し続ける、一人の「おじいさん」がいました。

私や私の兄が参加していた十数年もの間、その方はずっと台の上に立ち続けていました。子どもたちに「もっと腕を伸ばしなさい」などと口頭で指導することは一度もありません。ただただ黙々と、誰よりも美しく、正確にラジオ体操のお手本を示し続けるのです。私は、その方がどなたなのか、お名前も、どこに住んでいるのかも知りませんでした。一言も言葉を交わしたこともありません。しかし、毎朝当たり前のようにそこに立ち、体を動かすその姿は、私たちにとって間違いなく「Mr. ラジオ体操」であり、夏休みの象徴そのものでした。



今、教育の現場では、ICT機器を効果的に活用したり、子ども同士の活発な「対話」を通して学びを深めたりする授業づくりが重視されています。デジタル技術の進歩や対話的学びの充実は、子どもたちの思考力や表現力を伸ばす上で欠かせない現代の教育の基盤です。しかし、一方で、あのおじいさんのように「ただ黙々と、自らの姿勢（背中）で示すこと」のもつ教育的な力も、決して忘れてはならないとを感じるのです。どれほど効果的なICTツールや対話の手法があっても、大人の「あり方」そのものが与える効果は絶大です。「時間を守りなさい」と口で言うよりも、大人が時間を守る姿を見せること。「話をしっかり聴きなさい」と促すよりも、大人の真摯な話を聴く姿勢を見せること。子どもたちは、大人の「言葉」以上に、大人の「あり方」を驚くほどよく見て、そこから多くのことを学び取っています。

2学期は、持久走や全校遠足、東小の日など、子どもたちが主体となって大きな目標に挑戦する行事がたくさんあります。時には壁にぶつかり、悩むこともあるでしょう。私たち職員も、そして保護者や地域の皆様も、子どもたちに対して言葉で指示を与えるだけでなく、壁に挑む姿、他者を思いやる姿、そして日々を誠実に生きる姿を、まずは私たち大人が「お手本」として示していきたいものです。名前も知らないあのおじいさんが、私の心に「休まず続けることの尊さ」を植え付けてくれたように。

今学期も、学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちの成長を温かく、そして力強く支えてまいりましょう。どうぞよろしくお願いいたします。